

裾花の薫

# 裾花の生涯

裾花川出動

## 目次

出動の要請	三
出動	九
砂利採取作業	二五
制牛沈下掘付作業	二九
救急備と職員の状態	三七
受刑者の態度	四一
市民から寄せられた好意	四五
罹災状況	四七
工事の続行	五一
工事完了	七二
受賞	八三
記念碑の建立	百七
高松宮殿下を奉迎	一三五
出動記念日	一四五
結語	一四九
参考	一六三

出勤の要請

昭和四年九月二十日(木)日記

この日颱風龍巻の警報類々に及せられ警戒体制に入  
るよう呼ばれ掛りと居る。

朝から刑務所敷地買収問題で知坂所の買収候補  
地(竹苗)者秋田実氏、上原須及所長及本同所の有志

松沢氏等が来談、午後はこれ等の人々と共に須及所の  
候補地 秋田工場跡と検分する。

本日岩橋担南技官として大越進氏が着任<sup>す</sup>。

以上がその頃の要所の行なまいという成が大体そうしか  
な

私の日常であつた。

氣象の警報通つ刻から颱風の二州振れともいうや、  
候なまいに風雨が強くなる。

九月二十日(金)暴風雨

氣象の警報通つ刻の<sup>暴</sup>雨を伴つこの猛烈な颱風が襲  
来した。慥かに「キテイ」颱風と呼んば記憶している。

當日は秋分の日なりて荒天候にほあつたが無理を押しして恒例の  
物故者追悼法会を敷海堂に於て施行し、読経焼香の  
後お辞を朗読してその行事を終い、續て愛の花宮贈  
者の及表人會主催して收容者に開する「通」のプログラムを

菊に光輝ある歴史は我が修練道場の伝統として  
永久にかんばしい。梅花の量を放つであらましよう。諸君  
声高らかに修練道場歌を歌うように常に激励と  
して前進されることを希望します。

菊地信之丞